

平成 26 年度 奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起しによる地域活性化事業

富雄地域歴史的建造物調査報告書

石木・大和田・中・三碓・二名

平成 27 年 3 月

一般社団法人 奈良県建築士会

協力 奈良市教育委員会

目次

序

事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～2

調査地域の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3～4

地域全体調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5～7

各地区調査結果

石木・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～13

大和田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～19

中・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20～25

三碓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26～31

二名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32～37

報告会の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

はじめに

(一社) 奈良県建築士会では平成 22 年以來、地域の文化的価値のある歴史的建造物の価値を認識しその工法や技法等を習得することにより、これらの建造物を後世に継承していくことを目指して、文化財建造物専門家（ Heritage マネージャー）を育成してきた。

その Heritage マネージャーがこの度、奈良市文化財課の協力の下、奈良市内の旧富雄町域 5 地区：石木、大和田、中、三碓、二名における地域に根ざした歴史的建造物の掘り起こしのための調査を延べ 52 名で 785 件において実施した。

後述ページに掲載した調査結果は、隣接しながらもそれぞれの地域の特徴が異なる様子を浮き彫りにしている。

行政の協力のもと調査を行うことにより、地域住民から信任を得た環境の中で非常にスムーズに作業できた今回は、調査に留まるのではなく結果の報告会を実施し、行政・住民とともに地域や建物について歴史的、建築的見地から一緒に考察する機会を設けた。個人の財産であることは当然であるが、その建物が町の財産でもあるということを投げかけ、残し守り続けていくことの大切さや、改築を行い新しい建物に生まれ変わったとしても、地域の特性を活かしながら意匠・材料・工法を親から子、子から孫へと伝承していく意義を確認しあえたということは大きな意味を持つといえる。

そして、今ある建物も今後家族構成の変化や身体的な特性の変化に伴い、何らかの形で手を加えられていくことであろうが、その際この度の調査に加わった Heritage マネージャーは適切にあるべき姿を専門的見地から建築主と一緒に考えることができる唯一の技術者であると考えられる。

それは行政・住民と連携をしながらの地域貢献となり、専門家として新たな職能を発揮していく一步を踏み出したということでもある。

最後に、調査にご理解ご協力をいただいた住民のみなさま、およびこのような素晴らしい機会にご協力・ご指導いただいた奈良市文化財課専門職員に深謝するところである。

一般社団法人 奈良県建築士会
会長 瀧上徳光

報告書刊行に寄せて

奈良市内には多くの歴史的建造物があります。市では、これまでに行われた様々な調査の成果を基に、文化財保護を進めてきました。どこに、どんなものが、どれくらいあるか把握することが、文化財保護の基礎となります。しかし、江戸時代以降の建造物は大量にあり、近年は戦後の建物も保護の対象となり、未調査のものがたくさんあります。したがって、市では、これまでの調査を補完する調査が必要と考えていました。

歴史的建造物を文化財として保護するしくみは、明治以来長い間基本的に変りありませんでした。重要な文化財を「指定」し、現状変更を厳しく制限するとともに、修理工事等には手厚い助成を行って、その価値を厳密に保存するというものです。指定されるのは、特に価値の高い一部の建造物だけでした。その保護にたずさわるのも、一部の専門家に限られていました。

保護の対象が限定されていたころは、それでよかったのですが、現在、保護の対象は大きく広がっています。指定制度は、大量の物件を扱うには不向きです。そこで、平成8年、一定の価値があるものを幅広く対象とする「登録」制度が、新たにできました。建物を使いながら維持しやすいよう現状変更の規制が緩やかな分、手厚い助成もなく、所有者による自主的な保護に期待する、そんなしくみです。国の指定した建造物が約120年間で約4700棟であるのに対し、登録は18年間で既に1万棟に達しています。

これほど数が増えると、一部の専門家だけでは対応できません。そこで、民間において地域の歴史的建造物の保護を担う人材（ヘリテージマネージャー）を育成する取り組みが、各地の建築士会を中心に広がっています。奈良県建築士会でも平成22年度からヘリテージマネージャー育成講習会を行っていることは、我々も承知していました。

今回の調査は、以上のような状況をふまえ、奈良県建築士会と奈良市教育委員会との協働というかたちで行われました。その結果、本報告書のとおり、大きな成果をあげることができました。お世話になった多くの皆様に感謝申し上げます。

この成果をどう活かすかは今後の課題です。もちろん、文化財行政の立場からは登録や指定に活かすのが基本ですが、行政が扱える範囲は限られています。したがって、この報告書を通じて、多くの方に富雄地域の歴史的建造物の価値を再確認していただきたいと考えています。今回の調査が、地域の皆様、建築士会、学識経験者、行政等、それぞれがそれぞれの立場で文化財の保護に関わっていくきっかけになれば幸いです。

奈良市教育委員会 教育長 中室雄俊

事業の概要

【事業目的】

調査地の富雄川沿いは、旧集落と昭和40年代からの新興住宅が混在し、特有の地域文化が見られる地域である。しかし、住宅等の歴史的建造物の分布調査はほとんど行われておらず、地域特有の歴史的建造物の把握はあまり進んでいない状況である。他方、近年は、ショッピングモールや病院の建設などの開発が進み、地域の特徴も少しずつ変化してきている。

そこで、奈良県建築士会では、平成22年度から3ヶ年間で育成した地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）の活動の一環として、奈良市教育委員会と協働し、富雄地域の歴史的建造物の調査を行い、地域文化財の把握を促進し、その成果や分布状況を地域住民に報告、発信することで、地域文化財の認識が進み、まちづくりや地域の活性化に繋がる効果を期待し事業を実施した。

【期 間】 平成26年6月～平成27年3月

奈良市教育委員会と協働協定書を交わし、役割及び責任を分担し、調査票や調査内容の検討を重ね現地の下見を行った後、調査を実施。

【場 所】 奈良県奈良市旧富雄町域（石木 大和田 中 三碓 二名の5地区）

【調査対象】 近世近代の歴史的建造物（主に住宅 社寺建築は除く）

【調査員】 地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）、奈良市文化財課職員

【調査方法】

- ・各調査地区の自治会長に協力を依頼し、地域住民へ調査を周知。
- ・地域の歴史、文化、伝統などについて地域住民による講話を聞いて事前学習。
- ・調査員3名一組で外観からの目視により調査票へ記入。また、外観の写真を撮影。
- ・敷地の構成物である塀、門の有無を確認し、主たる建造物（主屋）を対象に 歴史的建造物（築50年以上）中間的なもの（新しいが伝統的な意匠のもの）非歴史的建造物に分類。屋根形式、階数、構造に加え、規模、意匠、改造の有無などの特徴も記入。
- ・調査後、調査票を完成させ地区の概要及び分布図を作成。

【情報発信】 調査終了後、主に地域住民に調査成果を報告する報告会を開催し、地域の特徴を報告。

【報告書作成】 5地区の調査の内容をまとめた報告書を作成し、今後の地域の資料とする。

* 地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）について *

奈良県内には奈良時代や鎌倉時代の全国でも貴重な文化財建造物とともに、近世、近代に建築された歴史的、文化的価値のある建造物も数多く残る。そこで、地域の歴史的建造物の価値を認識し、その工法や技術等を習得し、これらの建造物を後世に継承できることを目指して、文化財専門家育成の講習会を平成22年度から24年度の3年間行った。

講義と演習を含め60時間の講習を行い3年間で103人が講習を修了。地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）として奈良県の各地域での歴史的建造物の保全・活用に中心的な役割を担い、まちづくりなどにも加わり地域の活性化に寄与する人材として今後活動を行う。

【実施内容】

調査地域	日時	調査件数	参加者人数			
石木	平成26年9月13日	130件	建築士会	10名	奈良市	2名
大和田	11月8日	68件	建築士会	7名	奈良市	2名
中	11月29日	307件	建築士会	15名	奈良市	2名
三碓	12月13日	152件	建築士会	11名	奈良市	2名
二名	12月20日	129件	建築士会	9名	奈良市	2名



石木



大和田



中



三碓



二名



調査風景

調査地域の概要

富雄地域の位置と地理 富雄地域は奈良市の西部に位置し、富雄川に沿って南北に延びる地域である。西部に矢田丘陵、東部に西ノ京丘陵がありその中央部を富雄川が緩やかに南流し、両岸は沖積平野を形成している。富雄川は奈良県生駒市最北部に発し、富雄地域を経て大和郡山市で大和盆地平野部に至る。近世には水車が各所に造られ、灌漑用水源として非常に重要な動脈であり、現在も農業や暮らしに密着している。中町付近から天井川となり、両岸の平野を小規模な遊水地としながら大和郡山市城町に出る。近世には、現大和田町の一部が富雄川の氾濫を避け高台の地に移転したとの伝承も残るなど、洪水の被害が繰り返されたが、現在は河川改修が完了している。

近世、富雄は、奈良と大阪をつなぐ暗越大阪街道と呼ばれる街道と、富雄川沿いの大和郡山に通じる街道が交差する交通の要所でもあった。現在でも、富雄川沿いに県道7号枚方大和郡山線が走り、近鉄奈良線、阪奈道路、第二阪奈道路が横切り、大阪への交通の便が良い。高度成長期には開発が進み、丘陵地を切り開いて住宅地が建設され、富雄一帯は大きな変化を遂げている。



登彌神社



霊山寺本堂 国宝



追分本陣
村井家住宅
奈良市指定文化財



霊山寺三重塔
重要文化財



暗峠(生駒市)



現在の砂茶屋

富雄地域の歴史 富雄川に沿ったこの地域は山、川、里の立体的な好条件をそなえ、古代より自然発生的に集落が形成されたとされる。神話の時代からの多くの伝説が伝わり、富雄川を詠った歌も多く、創建が古代に遡るとされる霊山寺や、添御縣坐神社、十六所神社などがあり、国宝、重要文化財の建造物が多数残る古い歴史をもつ地域である。文禄4年（1595）には、増田長盛を奉行として太閤検地が行われ、二名・三碓・中・小和田の4村が定まった。その後、小和田村から大向、石堂、木嶋の3村が分かれるなどしたが、維新後、明治9年（1876）に石堂村と木嶋村が合併して「石木村」に、大向村と小和田村が合併して「大和田村」が発足した。明治22年（1889）には、二名村・三碓村・中村・大和田村・石木村の5か村が連合し、「富雄村」が成立した。

大正3年(1914)に近鉄の前身の大阪電気軌道が開通し、三碓に富雄駅が出来、昭和10年(1935)前後になって富雄駅を利用する大阪への通勤者が増加し、駅を中心に発展。人口の増加に伴い、昭和28年(1953)に「富雄町」が成立発足した。その2年後の昭和30年(1955)に奈良市と合併し今に至る。

昭和30年以降、高度成長期に入ると生駒町の東への発展と学園前の西への発展を受けて二名・三碓の駅前が急速に発展し富雄川沿いにも新しい住宅が出来た。昭和34年(1959)には阪奈道路が開通。昭和36年(1961)に日本住宅公団による富雄団地が開発され、大阪のベッドタウンとしてますます人口が急増し、景観の変貌も著しい。しかし、今回調査した地域では現在も米づくりを中心に農業は続けられていて、豊かな田園風景が広がり、かつての集落の形態も残されている。

富雄地域の産業 富雄では、長く農業が主な産業であった。江戸時代に農耕生産は増進し、米作に加え、蔬菜(そさい)栽培が進んだ。またこの頃は中世末から始まったという茶栽培に加えて、綿作も盛んに行われた。明治20年代には養蚕がおこなわれるようになり、大正末には、三碓でブドウの栽培が行われ、ブドウ園も出来た。また、昭和に入ると、明治初期から始めたスイカの生産も増大した。しかし、いずれも戦後衰退し、その後はスイカに替わり、イチゴの栽培が行われた。

また、明治末期から昭和初期までは稲作と麦作の二毛作が盛んで、昭和初期には「奈良段階」と言われて水稲10アール当たりの収穫量が全国的にも高い記録を打ちたたてた。大阪の寿司米、畿内の酒造米となる良質米の生産も行われた。

(参考 昭和29年『富雄町史』富雄町教育委員会発行、昭和56年『奈良県の地名』平凡社発行)

江戸時代の富雄 現石木町、大和田町周辺の絵地図



(出典 『鳥見霊蹟考』鳥見御霊蹟頭彰会、昭和14年)

地域全体調査結果

調査表	
調査NO	通しNo.
調査者	調査日 平成 年 月 日
物件名	所在地
敷地前面	塀 <input type="checkbox"/> 土塀 <input type="checkbox"/> 板塀 <input type="checkbox"/> その他()
	門 <input type="checkbox"/> 長屋門 <input type="checkbox"/> その他歴史的な門 <input type="checkbox"/> その他()
分類	<input type="checkbox"/> 歴史的建造物 <input type="checkbox"/> 中間的なもの <input type="checkbox"/> 非歴史的建造物()
建築年代	<input type="checkbox"/> 近世・近代(江戸・明治・大正・戦前・戦後) <input type="checkbox"/> 現代 <small>(50年以上経過しているもの) (戦前が歴史的建造物以外のもの)</small> <input type="checkbox"/> わかれば、○で囲む <input type="checkbox"/> 不明()
形態	<input type="checkbox"/> 住宅(町家・農家・その他和風・洋風) <input type="checkbox"/> その他(和風・洋風) <small>↑○で囲む</small> → (用途:)
主たる建物	屋根形式
	形状
	<input type="checkbox"/> 切妻() <input type="checkbox"/> 入母屋() <input type="checkbox"/> 寄棟() <input type="checkbox"/> 片側入母屋・片側切妻() <input type="checkbox"/> その他()
	<input type="checkbox"/> 葺葺() <input type="checkbox"/> 瓦葺() <input type="checkbox"/> 金属板葺() <input type="checkbox"/> その他()
	<input type="checkbox"/> 妻入 <input type="checkbox"/> 平入
	階数 <input type="checkbox"/> 平屋 <input type="checkbox"/> つし二階 <input type="checkbox"/> 本二階 <input type="checkbox"/> その他()
	構造 <input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> その他()
	蔵 <input type="checkbox"/> 土蔵 棟 <input type="checkbox"/> その他 棟 ()
附属屋	離れ
	納屋
	その他
	備考
(規模・デザイン・材料・改造の有無・石垣等の気づいた点を記入)	
写真(正面) 写真(敷地全体)	

敷地前面

構成する塀、門、石垣の有無を確認。

主たる建物(主屋)

歴史的建造物か中間的なものか非歴史的建造物かを判別し、歴史的建造物と中間的なものは屋根形状、葺材、階数、構造などを調査。

附属屋

主たる建物の歴史的・中間的・非歴史的の分類に関係なく、離れ、納屋、蔵などについて分類し、屋根形状と構造を記録。

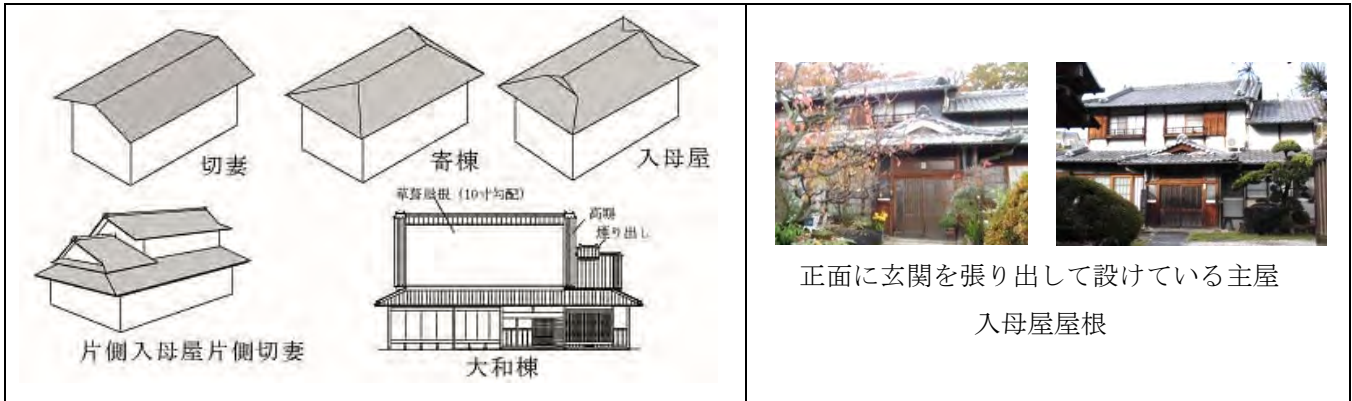
歴史的建造物：建築から概ね50年以上を経過している建物
 中間的なもの：建築年代は新しいが、伝統的な意匠の建物
 非歴史的建造物：上記以外の新しい建物

【調査件数における主屋の件数】 (調査総件数 785 件)

	石木	大和田	中	三碓	二名	
調査件数 (敷地)	130 件	68 件	306 件	152 件	129 件	
主屋	歴史的建造物	21 件	15 件	65 件	21 件	35 件
	中間的なもの	13 件	17 件	62 件	42 件	48 件
	非歴史的建造物	56 件	22 件	102 件	88 件	43 件
不明・その他	40 件	14 件	77 件	1 件	3 件	

※不明・その他とは塀や庭木などにより主屋が確認できなかった件数、及び、住宅以外の件数

【主屋屋根形式】



正面に玄関を張り出して設けている主屋
 入母屋屋根

〔 調査成果表 〕 主屋の屋根形式と階数について歴史的建造物と中間的なものの件数を示した。切妻造には伝統的な形式である大和棟形式の建物が、入母屋造には草葺の建物(現在はトタンがかかる)が含まれており、別途、括弧書きで示した。

			石木	大和田	中	三碓	二名	合計
主屋 屋根形式	切妻造 (内、大和棟)	歴史的建造物	16(3)	13(6)	23(-)	7(1)	15(4)	74(14)
		中間的なもの	3	12(1)	18	9	12	54(1)
	入母屋造 (内、草葺)	歴史的建造物	4(-)	-(-)	17(4)	12(-)	13(6)	46(10)
		中間的なもの	8	2	23	20	21	74
	片側入母屋 片側切妻造	歴史的建造物	1	2	20	1	5	29
		中間的なもの	-	2	21	13	13	49
寄棟造	歴史的建造物	-	-	1	1	2	4	
	中間的なもの	-	-	-	-	2	2	

*調査当初の石木では片側入母屋片側切妻造について意識的に調査していなかったため、確認できた件数が少ない。

主屋は歴史的建造物153件、中間的なもの179件が確認できた。歴史的建造物だけでなく、伝統的な意匠を継承する新しい建物が地区内に多数あることがわかった。その存在が地区の景観に大きく寄与しているように思われる。

歴史的建造物153件のうち、24件が大和棟や草葺の伝統的な屋根形式をもつことがわかった。大和棟の建物は中を除く4地区と広範囲で確認できた。特に14件中の6件と半数近くが大和田に残る。大和田には平成に建てられた大和棟もあるなど大和棟の分布において際だった地区であった。

伝統的な形式と考えられる草葺(現トタン葺き)の入母屋造は、中と二名に合わせて10件残っていた。三碓地区でのヒアリングによると、昔は、草葺の入母屋造の建物が多くあったといい、富雄地域の古い屋根形式は入母屋造だったのではないかと考えられる。

片側入母屋片側切妻造のように複雑な屋根形式をとる建物については、各地区で同様に調査していないため、正確な判断はできないが、中では歴史的建造物と中間的なものどちらも同数程度で見られ、三碓、二名では多くが中間的なもので見られた。

			石木	大和田	中	三碓	二名	合計
玄関 屋根	入母屋	歴史的建造物	2	-	19	1	4	26
		中間的なもの	6	9	32	19	19	85
	切妻、片流れ	歴史的建造物	-	-	1	2	-	3
		中間的なもの	-	1	1	-	-	2

*玄関の屋根形式については意識的に調査していなかったため、写真により確認できた件数を示した。

正面に玄関を張り出して設けている主屋がいくつか見られたので、その屋根形式の数を上表に示した。張り出した玄関は中間的なもので多く見られたが、中では、歴史的建造物にも多く見られる。玄関部の屋根が切妻や片流れの形式をとるものは、数は少ないが、大和田、中、三碓で見られ、中間的なものよりも歴史的建造物に多い。入母屋の屋根は昭和後半頃に建てられたと思われる中間的なものに多いようだ。玄関を張り出すのは、庶民の住宅に玄関の設置が可能になった近代になって、生活スタイルの変化に合わせて徐々に増えていったと考えられ、その屋根形式も片流れ、切妻、入母屋と徐々に複雑になっていったのかもしれない。

			石木	大和田	中	三碓	二名	合計
主屋 階数	平屋	歴史的建造物	6	6	9	7	13	41
		中間的なもの	-	3	10	4	4	21
	つし二階	歴史的建造物	8	7	28	9	16	68
		中間的なもの	-	4	2	10	10	26
	本二階	歴史的建造物	9	1	26	5	3	44
		中間的なもの	11	9	45	27	33	125

			石木	大和田	中	三碓	二名	合計
附属屋	長屋門		17	16	46	21	25	125
	離れ		24	28	59	51	70	232
	納屋		16	21	43	15	23	118
	土蔵		17	23	39	34	42	155

敷地には伝統的な意匠形式の附属屋が多数残り、その存在は地域の景観に大きく寄与している。特に長屋門は、その形式について時代による差異が顕著なようで、今後の調査研究に期待したい。

ヒアリングでは、各地区に大工が数人いて、昔はどの家も地区の大工に建ててもらっていたという話が聞けた。また、その大工がもと宮大工だったという地区もあり、良質な建物が多いこともうなずけた。古い歴史をもち農業を中心に栄えた富雄地域の豊かな文化や環境を背景に、高い技術で建てたものではないかと思われる。よく「大阪の食い倒れ」「京都の着倒れ」とともに「大和の普請倒れ」と言われるが、これらの良質な建築や集落景観を見るとその一端が垣間見えるようだ。

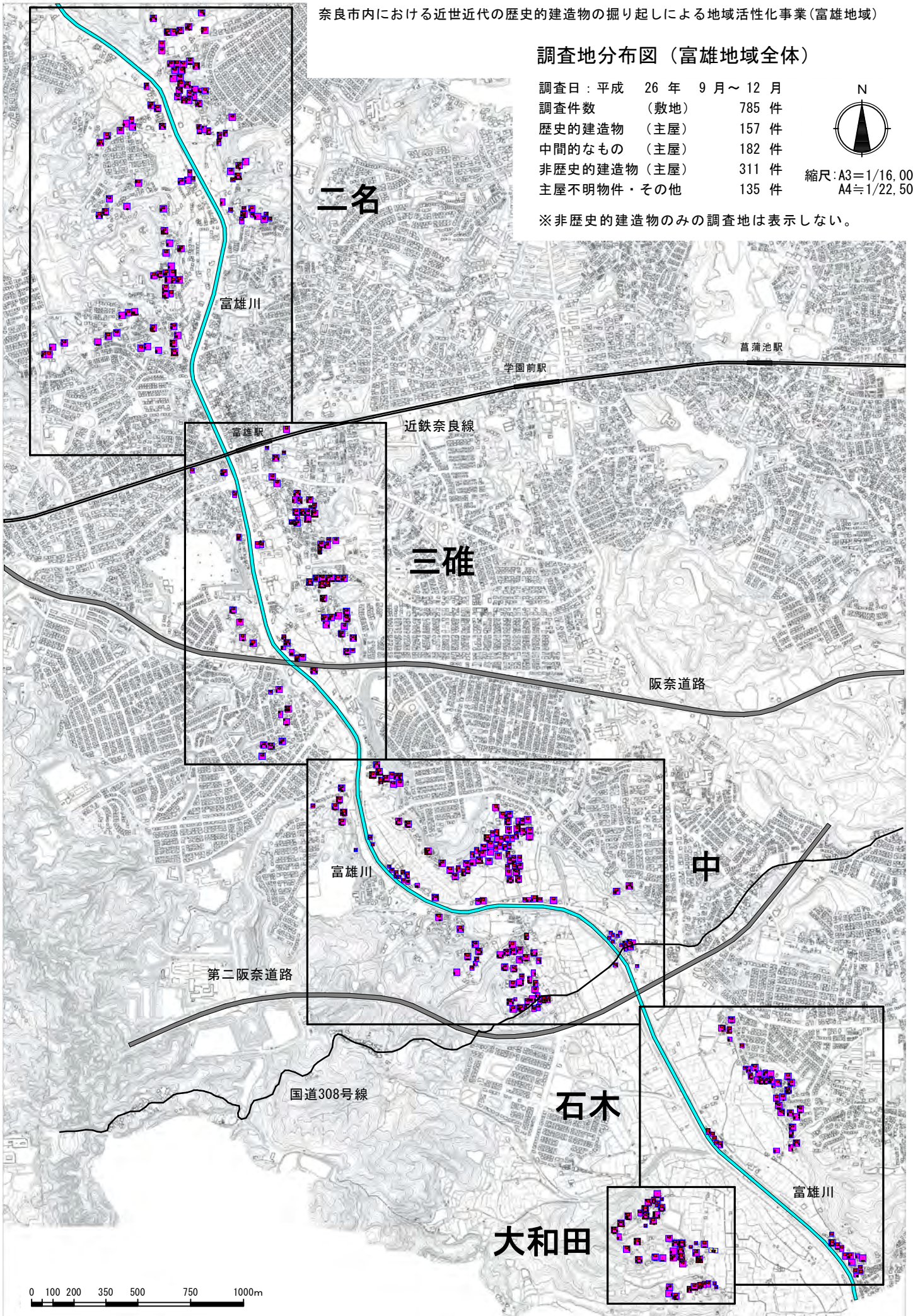
調査地分布図(富雄地域全体)

調査日	平成 26 年 9 月～12 月
調査件数 (敷地)	785 件
歴史的建造物 (主屋)	157 件
中間的なもの (主屋)	182 件
非歴史的建造物 (主屋)	311 件
主屋不明物件・その他	135 件



縮尺:A3=1/16,000
 A4=1/22,500

※非歴史的建造物のみ調査地は表示しない。



石木

調査日 平成26年 9月 13日



富雄川と集落の間に豊かな稲田が広がる

1-地区の特徴 ・ 考察

【景観・敷地】

- ・ 富雄川の東、奈良市の南端に位置し、川沿いに豊かな稲田が広がる地区。集落は平野部と東方の丘陵との境に位置し、富雄川脇の県道沿いにも数件が立ち並ぶ。
- ・ 地区の南端、大和郡山市との境には、筒粥祭（奈良市指定文化財登弥神社の粥占い）で有名な登弥神社があり、門前の街道沿いには規模の大きな町家が建っている。地区の北側には近年宅地とされた一画があり、更に調査中の10月にはショッピングセンターがオープンした。景観は変化しつつあるが、地区の中部は歴史的建造物や中間的なものが多く残り、主屋を中心に、南に庭と、庭を取り囲むように納屋、蔵、門屋（長屋門など）が配置される典型的な奈良盆地の「囲造り」の形式をとる農家住宅が多数見られた。

【主屋】

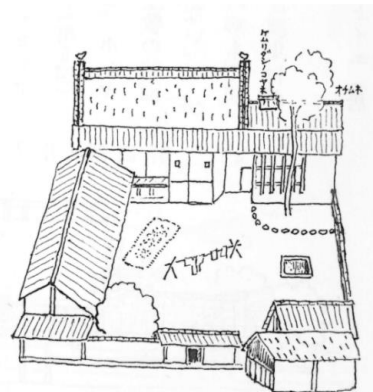
- ・ 歴史的建造物が21件、中間的なものが11件確認できた。歴史的建造物の中には、大和棟の建物が3件確認できた。
- ・ 登弥神社付近と富雄川沿いでは町家が7件確認できた。登弥神社付近の町家はつし二階建てで建ちが低く、3件中2件が虫籠窓、出格子、ベンガラ塗など伝統意匠で整えられていた。川沿いの町家4件中3件は本二階建てで建ちが高く、規模の大きな町家も見られた。

【附属屋】

- ・ 地区内で1件だけ、ドテ小屋と呼ばれる土壁の小屋が確認できた。

【その他の特徴・感想】

- ・ 登弥神社前には町家が立ち並び、また、「左 暗峠玉造」と書かれた道標もあり旧街道の面影が色濃く残っていた。



囲造りのイメージ(奈良市発行「奈良市史(民俗編)」1968年 94頁)

2-地区の風景・町並み



登彌神社 拜殿



建物写真 石木



大和棟の主屋
鉄板葺で落棟に煙出しがある。



町家の家並み 県道7号線沿い
つし二階に虫籠窓 袖うだつ
古い納屋も残る。



町家型主屋
つし二階 虫籠窓 袖うだつ 二階軒裏漆喰塗り込め
柱、梁、軒裏、格子は弁柄塗り。



弁柄塗り玄関部分。



下屋軒先、けらば、軒裏に細かい細工がされている。



町家型主屋
つし二階 虫籠窓 袖うだつ
玄関周りには弁柄塗りが見られる。

備考

建物写真 石木



建物配置

土塀が張り巡らされ長屋門がある。主屋はつし二階。虫籠窓、落棟に煙出し、辰巳蔵が見える。

屋敷囲い

長屋門、土塀で囲われている。樹木が茂っていて奥を見ることが出来ない。



主屋 片側入母屋、片側切妻造
 落棟に煙出しがある。

主屋 入母屋造
 門囲い板壁は弁柄塗り。主屋屋根、落棟も入母屋造。
 落棟に煙出しがある。



煙出し
 樹木が生い茂りわずかに見える大屋根に煙出しが見える。

しころ庇
 平屋、しころ庇。

備考

建物写真 石木



長屋門 土蔵
 通りから長屋門と土塀が見える景観。



長屋門
 伝統的な意匠の長屋門と納屋が見られる。



納屋
 7号線沿いの附属屋。土塗り壁、瓦葺で趣がある。



納屋
 門の外にある納屋は土塗壁、延石基礎。



ドテ小屋
 長屋門横に三つに区切られたドテ小屋。



石垣
 石垣が組み、伝統的な意匠の長屋門が建つ。

備考

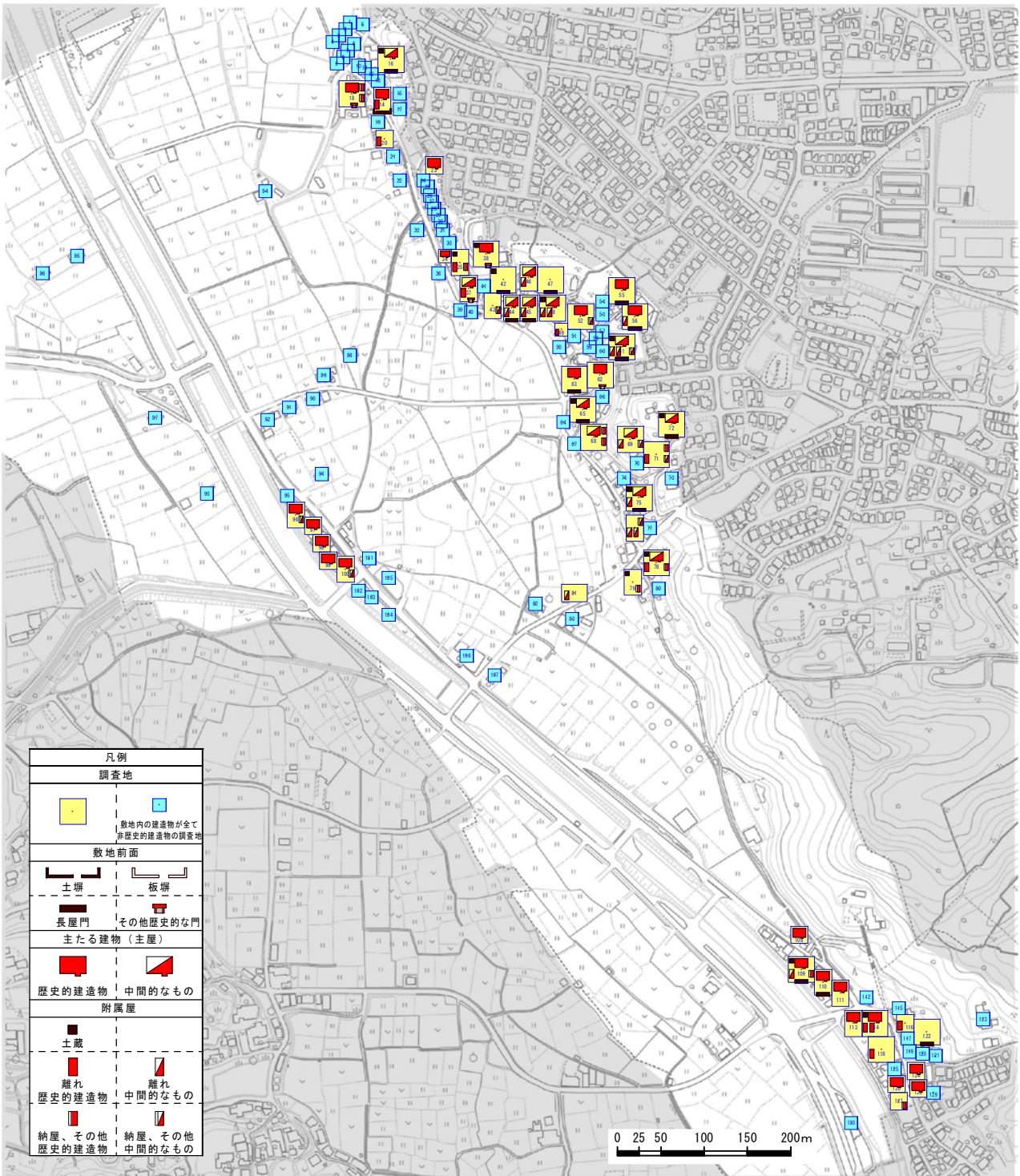
分布図
 石木

(地区名)

調査日：平成 26 年 9 月 13 日
 調査件数 (敷地) 130 件
 歴史的建造物 (主屋) 21 件
 中間的なもの (主屋) 13 件
 非歴史的建造物 (主屋) 56 件
 主屋不明物件・その他 40 件



縮尺：A3=1/5,000
 A4=1/7,000



大和田

調査日 平成26年10月13日



水害に備えて高台に住居を構える大和田地区の集落

1-地区の特徴・考察

【景観・敷地】

- ・富雄川の西、石木町の対岸の矢田丘陵東端部に位置する。
- ・この地区の集落の一部は、延宝3年（1675）に富雄川の氾濫を避け、川沿いの平野部から高台の地に移ったと言われており、実際、多くの家が高台に建っていた。高い石垣を積んだ敷地も多かった。
- ・屋敷構えは、奈良盆地によく見られる「囲造り」を基本とする形態が多く見られた。

【主屋】

- ・歴史的建造物が20件、中間的な建物が18件あり、ほぼ同数だった。
- ・歴史的建造物と中間的な建物38件のうち、32件が切妻屋根の形態をとっており、切妻屋根の主屋がほとんどを占める。また、そのうちの7棟は大和棟の形式をとっており、大和棟が立ち並ぶ景観が見られた。しかも、うち1棟は平成に入ってから建てられた大変珍しい例だった。
- ・竈の煙を排出するための煙出しがある主屋が5件あった。

【附属屋】

- ・長屋門が17件見られ、うち2件は、主屋は現代の建物だったが、門は古い建物だった。
- ・ドテ小屋と呼ばれる納屋が4件、その他の納屋が9件確認できた。いずれも、この地区の景観を整える要素となっていた。

【その他の特徴・感想】

- ・地区全体で見ても、歴史的建造物と中間的な建物の割合が多い。また、長屋門や蔵などの附属屋でも数軒確認できた。新しく建替えていても、伝統的な意匠で作られているものが多いようで、住民の歴史的な建物や町並みへの関心の高さが感じられた。
- ・主屋が新しく、附属屋が古いという敷地も多く、全体的に歴史的な町並みがよく残る地区で、さらに、ドテ小屋などが大和棟と併せて牧歌的な風景のアクセントになっていた。

2-地区の風景・町並み



建物写真 大和田



主屋 大和棟
 敷地内に長屋門、ドテ小屋、手入れされた庭があり、昔からの形態をよく残している。



主屋 大和棟
 南側に長かった棟を戦後に縮めるなど、2回に渡る大掛かりなリフォームを実施したとのこと。



主屋 大和棟
 平成に入ってから大和棟の形態で新築された。



主屋 大和棟
 敷地の東西南が低い石垣になっている城のような立派な屋敷。



主屋 大和棟
 珍しく西側の落棟に煙出しをもち、草葺の上のトタンの切欠きは小屋裏の通気用か。



長屋門
 東側にあり長屋門と主屋が接続している。この地域では珍しい。

備考

建物写真 大和田



長屋門
 石垣、両側に部屋がある長屋門、奥に主屋、西側奥に蔵を持つ。この地域の基本形か。

長屋門
 元つくり酒屋。主屋、付属屋を含め規模の大きい屋敷構え。



長屋門（両側窓なし）
 敷地の三方が高い石垣になっている為か、この地域では珍しく敷地北側にある蔵と接続している。

長屋門
 北側にあり、屋根が入母屋で両側の室には窓がない。



土蔵
 昭和36年築のもので棟が2段に段違い。

石垣
 出城のように内側に反りをもつ。

備考

建物写真

大和田



ドテ小屋
 何とも言えない風情を醸し出している。



ドテ小屋
 部分的にコンクリートブロックで改修されている。



ドテ小屋
 素晴らしい存在感をもつ。



ドテ小屋
 土壁の厚300程度ある。クラックの奥に竹小舞や木下地が何もないことが分かる。



倉庫
 他のドテ小屋とは異なり真壁づくりが端正な表情を作り出している。



納屋
 街角にこういう建物があるだけでホッとします。

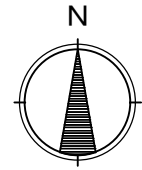
備考

分布図

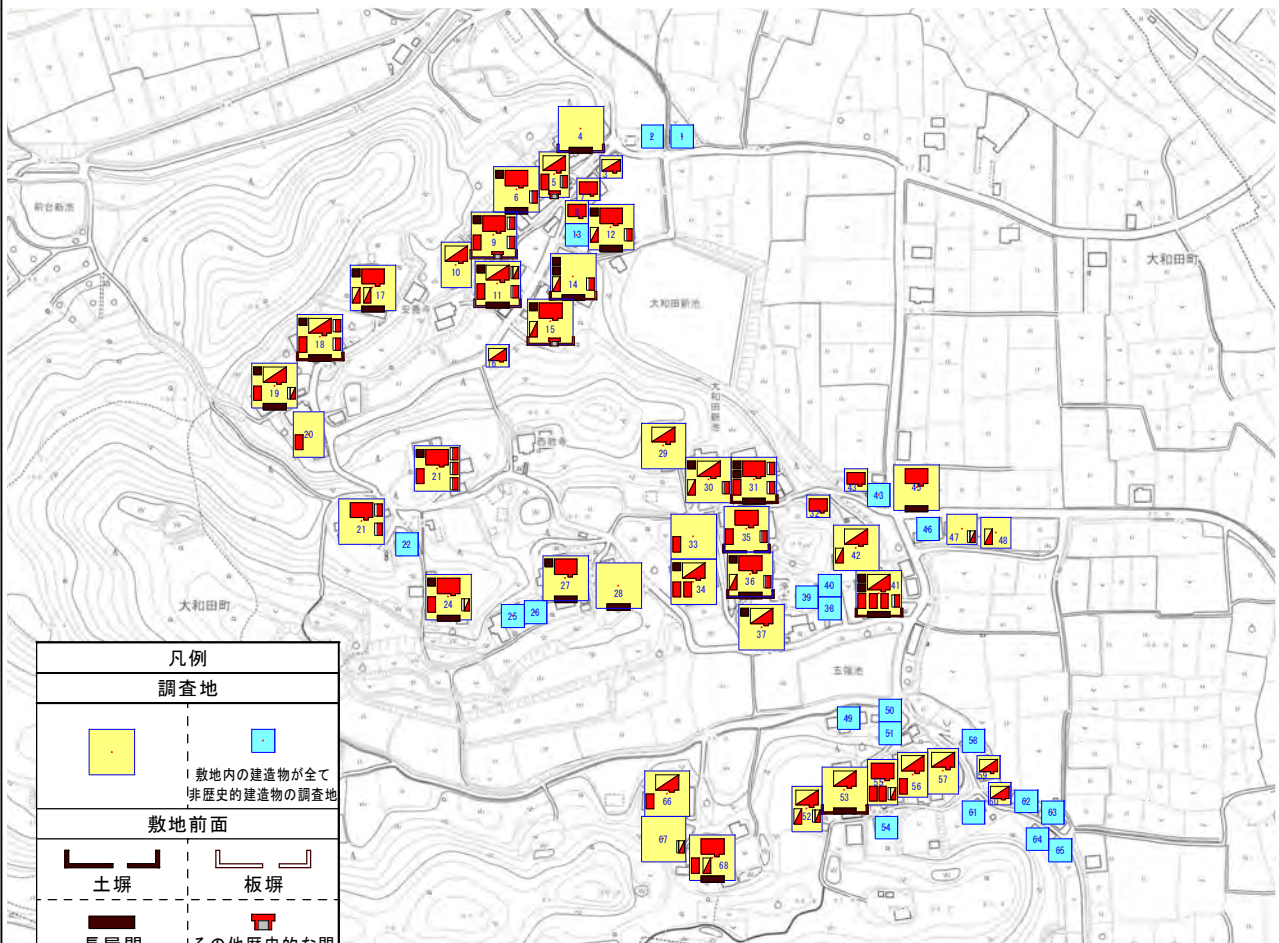
(地区名)

大和田

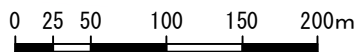
調査日：平成 26 年 11 月 8 日
 調査件数 (敷地) 68 件
 歴史的建造物 (主屋) 15 件
 中間的なもの (主屋) 17 件
 非歴史的建造物 (主屋) 22 件
 主屋不明物件・その他 14 件



縮尺：A4=1/5,000



凡例	
調査地	
敷地内の建造物が全て非歴史的建造物の調査地	
敷地前面	
土塀	板塀
長屋門	その他歴史的な門
主たる建物 (主屋)	
歴史的建造物	中間的なもの
附属屋	
土蔵	
離れ歴史的建造物	離れ中間的なもの
納屋、その他歴史的建造物	納屋、その他中間的なもの



中

調査日 平成26年11月29日



中には近世農家住宅の屋敷構えの特徴を色濃く残す家並みが多く残る

1-地区の特徴・考察

【景観・敷地】

- ・この地区は旧富雄町の中心地で、東西に暗越大阪街道が通る。
- ・調査した範囲には、6つ程の小字（こあざ）があり、農家住宅による農村集落の風情がよく残るが、街道沿いの砂茶屋には町家が残りに、農村集落とは違った雰囲気がある。
- ・農家住宅は、「囲造り」の形態を基本とする形態が多く見られた。

【主屋】

- ・この地区には大和棟の建物は1件もなかった。草葺（現在は鉄板葺）の建物は4件確認でき、いずれも入母屋造だった。
- ・その他の歴史的建造物は、切妻造、入母屋造、片側切妻・片側入母屋造、寄棟造と全ての屋根形式が確認できた。特に寄棟造は、富雄全体でも4軒しか確認できず、その内の1件がこの地区で確認できた。
- ・歴史的建造物の中で、つし二階の建物が30件ほど見られた。つし二階の建物は、本二階の建物よりは古い形式であると考えられ、他の地区と比べても、中町には良く残る。
- ・地区内1件だけ確認できた町家は、間口が大きく、虫籠窓や出格子などの町家特有の意匠で整えられている。また、花頭窓と言われる禅宗様寺院建築の形式の窓が付き、一般的な町家とは少し異なる雰囲気だった。

【附属屋】

- ・ドテ小屋と呼ばれる納屋が1件だけ確認できた。古くはもっとたくさんあったようで、貴重な遺構。

【その他の特徴・感想】

- ・富雄川岸の平地に耕作地が広がり山裾に集落があるという生活空間は、半径300m程で包含できる範囲で、徒歩5分から10分で移動できる。昔の人が生活するのに無理の無い生身の行動範囲であると感じられた。

2-地区の風景・町並み



建物写真 中



屋敷構え

低いつし2階、落ち棟部分には煙出し。門屋、納屋など附属棟に囲われた内庭。



屋敷構え

間知石積みの高台に建ち、周囲の畑、山林と一連になった風景を醸し出している。



屋敷構え

大きなシンボルツリーが目を引く。田畑や周辺の山の緑と呼応するかのように威風堂々と建つ。男性的な印象。



庭空間（作業庭）

主屋、長屋門、納屋など附属建物に囲われた内庭空間。もと農家の作業庭だったと思われる。



庭空間（作業庭）

納屋を車庫などに利用している。



庭空間（作業庭）

主屋に対し、南面する形で庭がある場合が多く、納屋などは主屋に対して直行して東西に建つことが多かった。

備考

単体の建物だけでなく、附属屋を含めた建物の配置や屋敷の構え方に注視する必要がある。納屋と蔵には農家の生業に関わる施設としての性格がある。

建物写真 中



草葺の主屋
 この地区には入母屋造(もと草葺)の主屋が4件残る。



土蔵
 蔵を持つ屋敷が多い。基本的に戌亥蔵、辰巳蔵であり、大きい屋敷では連棟になっている場合もある。



納屋
 農機具、農作物の備蓄、農作業の場。



納屋
 主屋に対して直行する形で建つことが多い。土庇の下の軒内空間は庭と納屋の中を緩やかに繋いでいる。



庄屋の長屋門

代官屋敷の長屋門

長屋門
 庄屋や代官の屋敷はひとときわ大きく立派な門構え。



長屋門
 長屋門にも戦前からのもの、戦後に建てられたものなど様々であるようだ。

備考
 数件の草葺の家と、伝統的な素材と構法・意匠により建築された多くの家により、統一感のある情景が醸し出されている。

建物写真 中



農家住宅に見られた虫籠窓

街道筋に面する町家住宅に見られた虫籠窓



屋並み（いぶし瓦の薨の波）
 伝統的な素材と構法・意匠により建て替えられた家が多く、統一感のある情景を醸し出している。

細部の意匠（虫籠窓・煙出し）
 伝統的な意匠である、つし2階、虫籠窓、煙出し。



ドテ小屋
 農具や肥料の置場として利用されてきたらしい。中町ではほとんど残っておらず、貴重な遺構。

暗越奈良街道に面する町家
 砂茶屋に残る間口の大きな町家型住宅。虫籠窓、出窓格子などの意匠の他に、社寺建築で見られる花頭窓が見られた。



旧代官屋敷
 中町には代官の屋敷がふたつあった。広大な敷地に長屋門、辰巳蔵、戌亥蔵のほか複数の附属屋を配する。

庄屋の屋敷
 主屋に煙出しのつく大規模な屋敷、長屋門も地域の中でも特別大きい。地元の話では建築当初からのもの。

備考 特色のある意匠（洋館併設）
 和館主屋に洋館が併設された住宅。地区内ではほかに確認できなかった。建築年代はやや新しいように感じる。



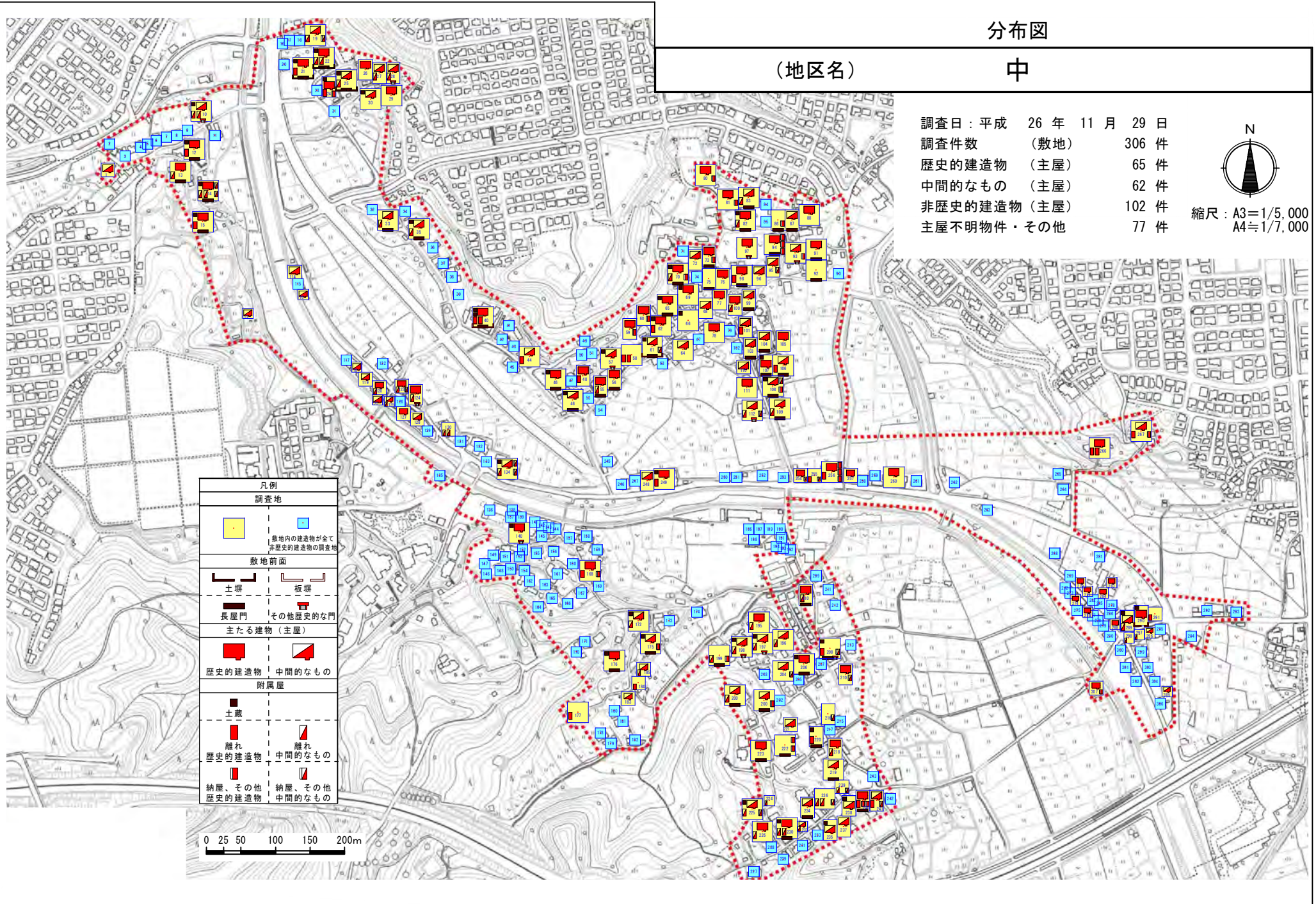
分布図

(地区名) 中

調査日	平成 26 年 11 月 29 日
調査件数 (敷地)	306 件
歴史的建造物 (主屋)	65 件
中間的なもの (主屋)	62 件
非歴史的建造物 (主屋)	102 件
主屋不明物件・その他	77 件



縮尺：A3=1/5,000
 A4=1/7,000



凡例	
調査地	
	敷地内の建造物が全て非歴史的建造物の調査地
敷地前面	
	土塀
	板塀
	長屋門
	その他歴史的な門
	主たる建物 (主屋)
	歴史的建造物
	中間的なもの
	附属屋
	土蔵
	離れ
	歴史的建造物
	中間的なもの
	納屋、その他
	歴史的建造物
	納屋、その他
	中間的なもの

0 25 50 100 150 200m

三碓

調査日 平成26年12月13日



歴史的な建物の背部にマンションが建ち共存した風景

1-地区の特徴・考察

【景観・敷地】

- ・三碓地区は近鉄富雄駅南側に位置し、富雄川の東側は丘陵の裾に沿って民家が立ち並び、西側は高台に民家が分布している。
- ・旧集落の家々を繋ぐ狭い路地は、傾斜も多く、複雑に入り組んでいた。敷地との高低差もあり、多くの家で石積みが見られた。
- ・農業が生業であった家が多く、現在も敷地が広い家が多い。その多くは他の地区同様に「囲造り」の形式をとっている。

【主屋】

- ・地区内で1件だけ確認できた大和棟の建物は現在も草葺で、鉄板を被せていないものは富雄地域全体でもこの1件だけだった。駅前の電車からも見える位置にあり、近鉄の旧変電所や百楽荘などとともに、地域の歴史的景観に大きく寄与すると思われる。
- ・平屋やつし2階の歴史的建造物には良質な建物が多いように感じられた。

【付属屋】

- ・富雄川の西側、旧集落の南端には風情のある土塀が残っていて、趣のある景観となっていた。

【その他の特徴・感想】

- ・戦前は、草葺の屋根の家屋が多かったようで、「たのもし講」と呼ばれる寄り合いが5～10件単位で構成され、毎年藁を作業小屋やつし二階に集めておき、20年に一度、輪番制で藁屋根葺き替えが行われていたという。また、普請時には、構造材に使用する木材調達や伐り出しなどは、住民総出で牛車に引かせ運び出されていたという。当時の大工職人はその様な手間や労力を掛けて与えられた木材を前にして、どのような思いで取り組んでいたのか。技量もさることながら「気概・誠意」が伝わってくるようである。このような昔ながらの関係により、コミュニティが守られ信頼関係が出来ていたのではないだろうか。

2-地区の風景 町並み



建物写真 三碓



主屋
 つし二階、入母屋造。
 主屋と離れの屋根が接続している。

離れ
 石積みの上に建てられた離れ。



主屋と附属屋 塀
 稲刈りを終えたたんぼと長屋門、主屋、戌亥蔵
 が見える景観。

敷地内建物
 主屋の他に蔵や離れなど複数の建物が建つ。



主屋
 昭和初期に建てられた厨子（つし）二階の建
 物。入母屋造。虫籠窓が見られる。

主屋と離れ
 古い離れが残る。玄関は張出し入母屋造。

備考
 囲造りの敷地が多く見られた。蔵は辰己蔵より戌亥蔵の方が多いか。玄関が張出し入母屋造の
 主屋が多く見られた。

建物写真 三碓



長屋門（蔵に接続）
 腰壁板と漆喰で仕上げられた真壁造りの外壁。



石垣
 石積みの上に延石を並べ建てられた建物。



土塀
 納屋と風情のある土塀。



軒桁が折置き組で組まれた建物。梁丸太小口が現しで見える。



質朴さが感じられる佇まい。



蔵
 七宝飾りのなまこ壁。

備考
 地域の特徴から敷地に高低差があり、石垣上に建つ建物が多い。石垣もお城のように高く積まれた擁壁が多く見られる。

建物写真 三碓



主屋
 時代の変遷を感じる。



蔵
 高い石垣の上に建つ戌亥蔵（置き屋根）。



屋根
 一文字瓦葺きの数寄屋風屋根。



蔵と塀
 昔からの石垣に併設する和の趣を取り入れた擁壁と蔵。



通りから見える蔵と離れ
 伝統的な建物と現代の建物が並ぶ景観。



主屋 大和棟
 改修されたと思われる大和棟。

備考
 置き屋根の蔵がいくつか見られた。

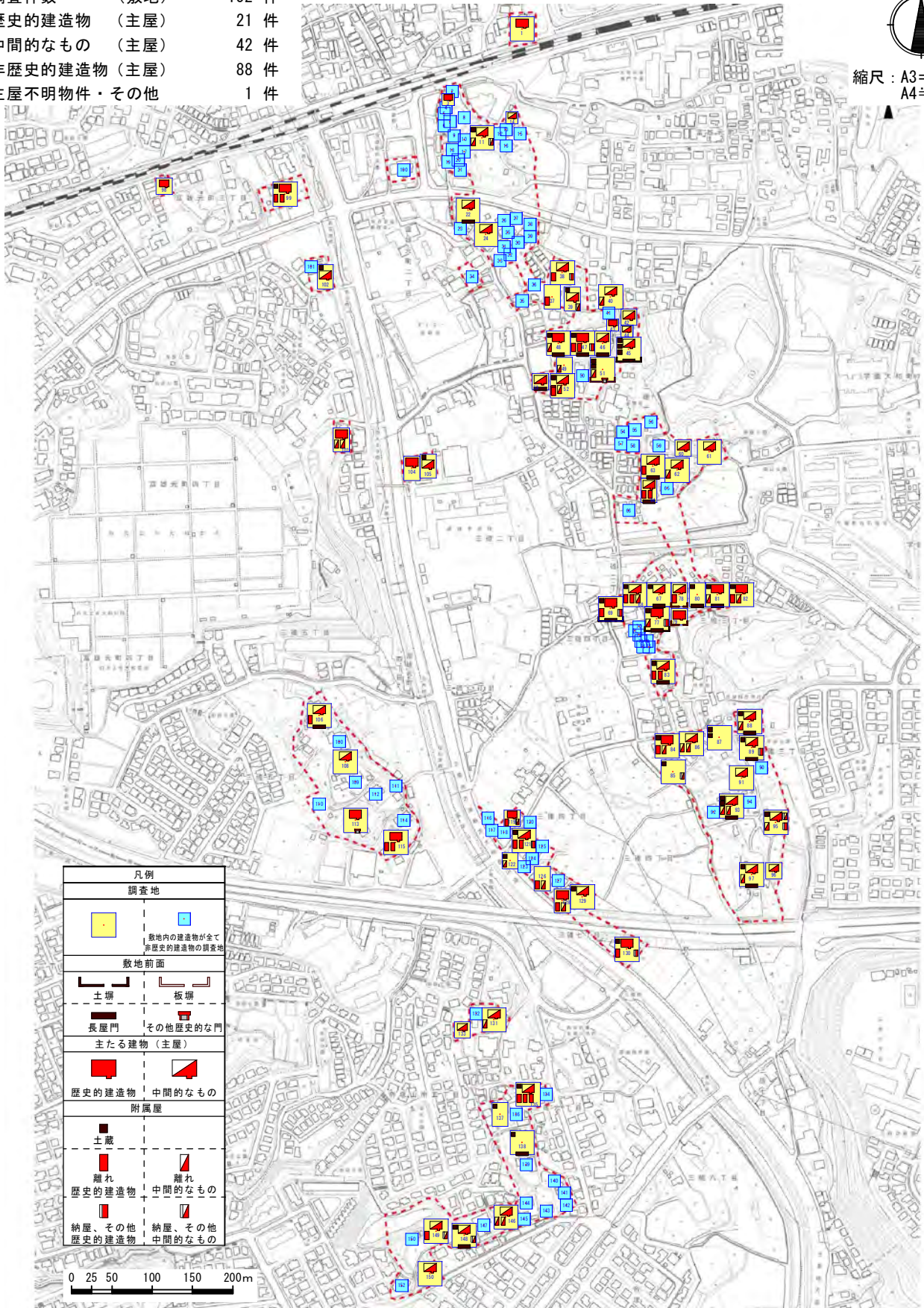
分布図
 三碓

(地区名)

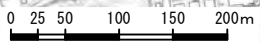
調査日：平成 26 年 12 月 13 日
 調査件数 (敷地) 152 件
 歴史的建造物 (主屋) 21 件
 中間的なもの (主屋) 42 件
 非歴史的建造物 (主屋) 88 件
 主屋不明物件・その他 1 件



縮尺：A3=1/5,000
 A4=1/7,000



凡例	
調査地	
	敷地内の建造物が全て非歴史的建造物の調査地
敷地前面	
	土塀
	板塀
	長屋門
	その他歴史的な門
主たる建物(主屋)	
	歴史的建造物
	中間的なもの
附属屋	
	土蔵
	離れ
	離れ
	歴史的建造物
	中間的なもの
	納屋、その他歴史的建造物
	納屋、その他中間的なもの



二名

調査日 平成26年12月20日



富雄川沿いの農地の後ろには集落がその背後の丘陵地には新興住宅地が建ち並ぶ

1-地区の特徴・考察

【景観・敷地】

- ・二名地区は近鉄富雄駅北に位置し、富雄川の東は丘陵の裾に沿って、西側は丘陵の谷間に深く入り込むように民家が分布する。
- ・富雄駅北側に近いという利便性から、昭和30年から40年代の住宅地開発時期以降の開発が進み、駅北側と丘陵地に新興住宅が建ち並ぶ。
- ・旧集落の農家住宅は、他の地区同様に「囲造り」の形式をとる。

【主屋】

- ・草葺屋根に鉄板を被せた入母屋造の歴史的建造物が6件、大和棟が4件確認できた。地区内で両方確認できたのは5地区中二名だけで、残りが良い印象を受けた。
- ・大和棟の建物のうち1件は、コンクリート造の建物が側面、背面に取り付くように建っていて珍しい。全体を新築したものかコンクリート部分を増築したものかは不明。
- ・草葺屋根に鉄板を被せた入母屋造の建物には、妻に煙出しがついていた。あまり見たことがない。

【附属屋】

- ・草葺の附属屋が1件確認できた。草葺の附属屋は、富雄地域全体でこの1件だけだった。
- ・他の地区同様、長屋門や納屋などの附属屋だけが歴史的建造物である敷地が多く見られた。また、歴史的建造物である主屋を残したまま、敷地内に新たに家を立てて主な住まいにしている例も見られた。

【その他の特徴・感想】

- ・空家が4件ほど確認できた。一方で、飲食店として利活用されている建物もあった。富雄地域全体の中でこのような利活用がなされている事例は少なかった。
- ・「囲造り」の敷地形態や歴史的建造物が残る旧集落に近接し新しい住宅街が立ち並ぶ独特の景観が形成されていた。地区の古くからの生活や居住形態が身近に感じられるのではないだろうか。

2-地区の風景・町並み



二名地区の北部にて富雄川を南に見る。



二名地区の北部にて北東側を見る。丘陵麓の南側に家屋が建造されている。



二名地区の西部、三松ヶ丘緑地付近から東側を見る。新しい住宅地が立地。



二名地区の東部、法融寺付近にて北部を見る。丘陵麓の南側に家屋が建造されている。

建物写真 二名	
	
<p>主屋 大和棟 南側に長屋門、中庭を経て、大和棟の主屋がある。煙出しが付く。</p>	<p>主屋 大和棟 南側が坂道で門はない。煙出しが付く。戌亥と辰巳に土蔵がある。</p>
	
<p>主屋 大和棟 大和棟北面に鉄筋コンクリート造建物が張り出す。</p>	<p>主屋 大和棟 西面に鉄筋コンクリート造建物が張り出す。</p>
	
<p>主屋 入母屋造(もと草葺) 東側に長屋門がある。</p>	<p>主屋 入母屋造(もと草葺) 板塀が景観を整える。</p>
<p>備考 No. 12の大和棟主屋は木造大和棟に鉄筋コンクリート造を増築したものか、大和棟とも改築したものか不明であるが、地区に古くからある大和棟形態を残そうとした住民の意思の表れではないだろうか。</p>	

建物写真 二名



主屋 入母屋造（もと草葺）
 東側妻面に煙出しが付く。



主屋 入母屋造（もと草葺）



主屋 入母屋造（もと草葺）
 妻側に「水」の文字。



主屋 入母屋造（もと草葺）
 規模が大きい。



主屋 寄棟造（もと草葺）
 主屋の妻面の煙出しに特徴あり。
 北側から見た所。



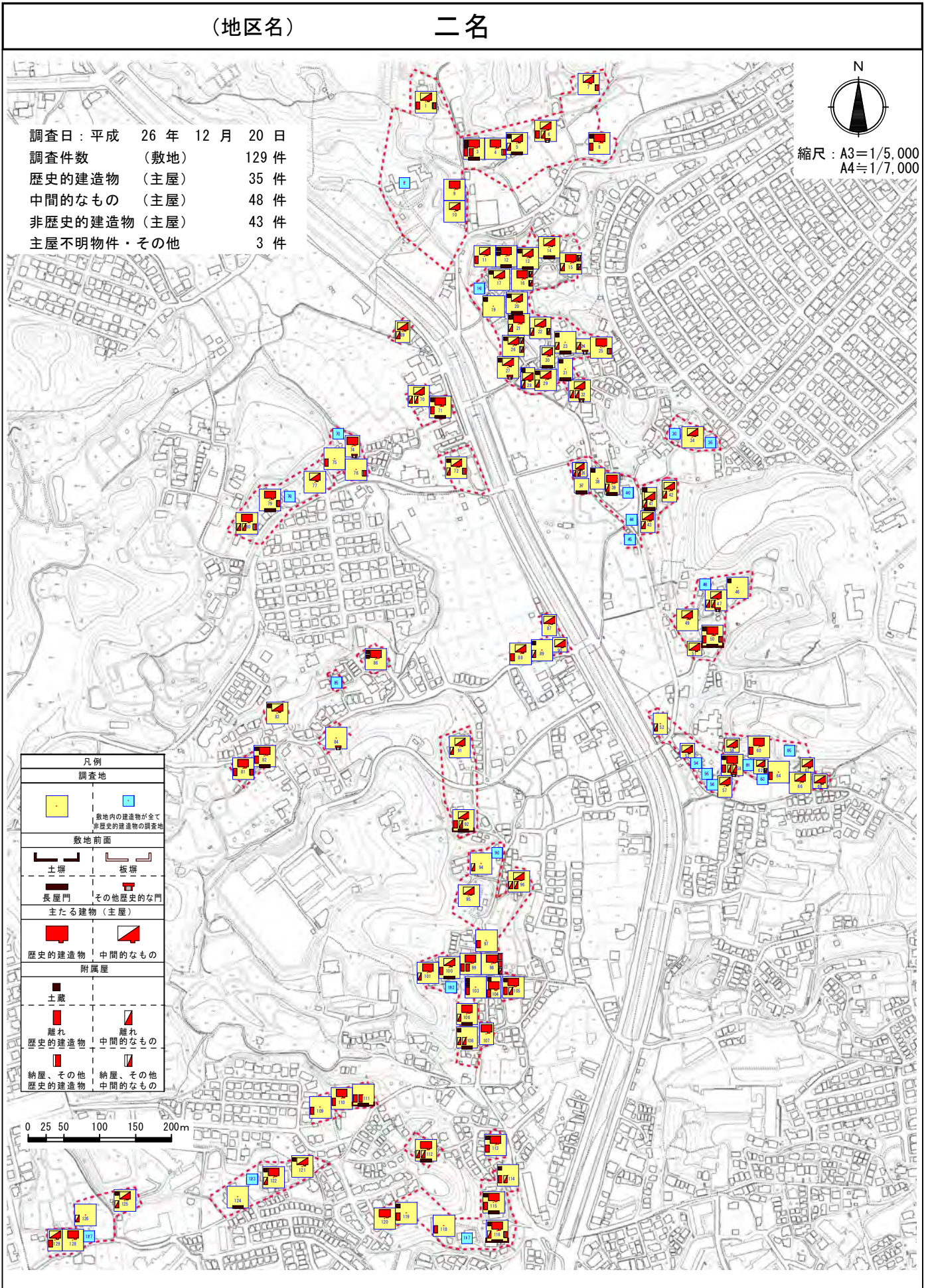
寄棟造の煙出し(拡大)
 寄棟造の屋根に付く煙出し。煙出しの位置は土
 間付近か。

備考

建物写真 二名	
<p>入母屋造(もと草葺)の離れ 地区の中で唯一確認できた草葺の離れ。</p>	<p>主屋 切妻造 つし二階。虫籠窓が付く。</p>
<p>長屋門 屋敷構成 地区の北側丘陵南麓に立地。 長屋門は居住棟に改修されたか。</p>	<p>長屋門 大和棟の主屋の南側に位置する。西側に2階建 離れが接続する。</p>
<p>長屋門 入母屋造の主屋の東側に位置する。</p>	<p>長屋門 道路沿いの建物で犬矢来が設置されている。 京町家風の景観。</p>
<p>備考</p>	

分布図
 二名

(地区名)



報告会の記録



【プログラム】

PM1:30～2:40	「5地域の調査報告」 調査を行ったヘリテージマネージャーによる	(発表者)
	* 調査の概要	徳本雅代
	* 調査報告 石木町	安田千鶴代
	大和田町	米村博昭
	中町	中尾克治
	三碓地区	武中洋勝
	二名地区	高安秀和
PM2:40～2:50	休憩	
PM2:50～3:50	「パネルディスカッション」 【コーディネーター】奈良女子大学教授 増井正哉氏 【パネラー】芝口健一 武中洋勝 高安秀和	
PM3:50～4:00	挨拶	
	奈良市教育委員会	山口 勇
	(文化財保護指定文化財係長)	
	奈良県建築士会	見柳佳朗
	(住まい・まちづくり委員会委員長)	

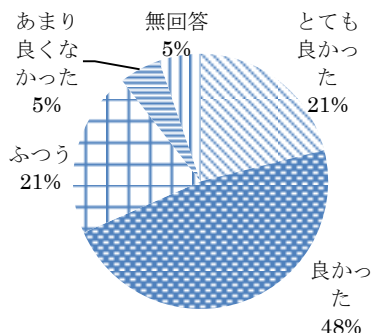
増井正哉氏プロフィール
 奈良女子大学生活環境学部教授。1955年生。京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了。専門は歴史遺産の保存・活用、建築史。奈良県、滋賀県、京都府、徳島県で15地区の保存対策調査に参加し、うち8地区が重伝建地区の選定を受ける。著書に「まち脈画祭すまい・都市祭礼の現代」(共同)「住まいのかたち・くらしのならい」(共編)など多数。伝建対策調査、見直し報告書として、「東祖谷落合」「今井町」など

主催・(一社)奈良県建築士会 共催・奈良市教育委員会

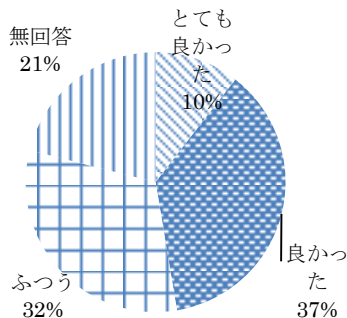


アンケート（来場者 32 人、回答数 19 人、回答率 59%）

①5 地区の調査報告について



②パネルディスカッションについて



※とても良かった・良かった・ふつう・あまり良くなかった・良くなかったの五段階で評価

アンケートでは、「地区の全体像がわかって良かった。」「景観が良く残っていることを再認識した。」といった意見が多かった。

また、「調査成果を町並みや景観の保存に活かして欲しい。」「地区内の小学校の学習の一環として活かして欲しい。」といった意見があった。

一方で、「積極的な意見がもっと欲しかった。」「調査成果をどのように活かすかが難しい。」といった課題もみえた。

平成26年度文化遺産を活かした地域活性化事業
奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業（富雄地域）

調査員

(ヘリテージマネージャー) 米村博昭
紀本澄男
見邨佳朗
徳本雅代
高安和秀
米田 巧
森本弓子
太田幸雄
武中洋勝
芝口健一
水下 力
安田千鶴代
渡辺有佳子
藤田 泰
間嶋伸介
平野智久
伊阪 洋
中尾克治
庄田尚代
栗原昭子
何左昌範
松村徳泰
(奈良市教育委員会) 山口 勇
田中梨絵

報告書担当者

(ヘリテージマネージャー) 米田 巧
高安和秀
中尾克治
武中洋勝
安田千鶴代
芝口健一
徳本雅代
(奈良市教育委員会) 田中梨絵

平成26年度 奈良市内における近世近代の
歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業
富雄地域歴史的建造物調査報告書
2015年3月
発行 一般社団法人 奈良県建築士会
(住まいまちづくり委員会 奈良ヘリテージ支援センター)
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
TEL 0742-30-3111
編集協力 奈良市教育委員会 文化財課

本書は、個人情報・プライバシー保護のため、奈良市教育委員会が報告書原本の一部を修正したものです。